

Windows 7 のインストール方法

Windows 7 のインストールプロセスはシンプルで迷うことなく作業を進められる。しかしインストールをはじめる前に知っておくべきことは多い。ここからは、Windows 7 を実際に導入する際に注意すべきポイントを紹介していく。



■ 実は 3 種類もある Windows 7 のインストール方法

Windows 7 を実際にインストールするにあたり、事前に検討しておきたいことの一つがインストール方法である。

インストール方法は 3 種類ある。一つはまっさらな HDD、あるいはパーティションに Windows 7 をインストールする「クリーンインストール」。二つ目は従来使っていた OS が入っている HDD (パーティション) に、Windows 7 を新規にインストールするやり方だ。本特集では、クリーンインストールと区別するため、これを「準クリーンインストール」と呼ぶ。この方法を選んだ場合、これまでの「Windows」や「Program Files」といったフォルダの中身はすべて「Windows.old」というフォルダに移動されるが、旧 OS の設定は引き継がれない。

三つ目は「アップグレードインストール」で、従来の OS の設定を引き継いだ状態で Windows 7 がインストールされる。環境を構築し直す手間がなく、スムーズに Windows 7 環境に移行できるのがメリットだが、アップグレードインストールを行なうにはいくつかの条件をクリアしなければならない。

まず事前に使っていた OS が Windows XP の場合は、エディションにかかわらずアップグレードインストールは利用できない。また、現在 32bit の Windows Vista を使っていて、64bit の Windows 7 に移行する、あるいはその逆で 64bit Vista から 32bit 7 という場合もアップグレードインストールは行なえない。

ここまでの条件をクリアしても、エディションによってはアップグレードインストールができないので注意したい。たとえば Windows Vista Ultimate からインストールメディアを立ち上げ、Windows 7 Home Premium など下位エディションにアップグレードインストールしようとしても、エラーメッセージが表示されて実行できない。

ちなみに Windows Vista Home Basic/Home Premium から、Windows 7 Professional へのアップ

グレードパスは用意されていない。ただ、どうしても Professional を使いたい場合は、まず Windows 7 Home Premium にアップグレードしてから「Windows Anytime Upgrade」で Professional に移行する方法がある。

このように Windows 7 のアップグレードインストールの条件は複雑になっている。Windows Vista からのアップグレードを考えている場合には、まず自分の環境がアップグレードインストール可能かどうかを事前に確かめてほしい。

アップグレード前のOSとエディション		アップグレード後のエディション		
		Windows 7		
		Home Premium	Professional	Ultimate
Windows Vista	Home Basic Home Premium	アップグレードインストール	直接のアップグレードは不可※	アップグレードインストール
	Business	準クリーンインストール	アップグレードインストール	アップグレードインストール
	Ultimate	準クリーンインストール	準クリーンインストール	アップグレードインストール
Windows XP	すべて	準クリーンインストール		

※Windows 7 Home Premiumにアップグレード後、Windows Anytime Upgradeを利用すればエディションの移行が可能

32bit版から64bit版、64bit版から32bit版に変更する場合は、エディションに関わらずアップグレードインストール不可

Windows 7 アップグレードチャート

現状使っている OS のバージョンとエディション、そして移行先の Windows 7 のエディションでアップグレードインストールが可能かどうかをまとめた

「1」USB メモリを使ったインストールメディアの作成

Windows 7 のインストールメディアは DVD で提供される。そのため、光学ドライブを内蔵しない PC には、そのままではインストールできない。そこでぜひ試したいのが、USB メモリによるインストールだ。

必要なものは、Windows 7 のインストールメディアの内容がすべて収められる 4GB 以上の USB メモリ。また、インストールする PC が USB メモリからのブートに対応している必要がある。BIOS 画面で確かめられるので、チェックしてほしい。ここ 2、3 年以内に発売された PC であれば、大半がサポートしている。

USB メモリを使って PC を立ち上げるためには、ブートセクタを USB メモリに書き込まなければならない。そのためのコマンドとして、Windows には「bootsect」というコマンドがあり、これを利用すれば起動可能な USB メモリを作成できる。ただ、コマンドラインで作業する必要があるのが難点で、さらに間違えると Windows が立ち上がらなくなる危険性も伴う。そこで今回は、フリーソフトを使って Windows 7 のインストールに使える USB メモリを作成してみよう。

利用するのは「[A Bootable USB](#)」というフリーソフトだ。これを使えば簡単にWindows 7をインストールできる USB メモリを作成できる。

作業手順は、まず利用する USB メモリを指定してフォーマットする。続けて Windows 7 のインストールメディアを選択すれば、ファイルのコピーとブートセクタの書き込みが自動的に行なわれて完了する。

Windows 7 インストール用の USB メモリが作成できたら、実際にインストールする PC の BIOS で USB メモリから起動するように設定しよう。USB メモリを装着して電源を投入すれば、DVD と同様に Windows 7 のインストールプロセスが始まるはずだ。



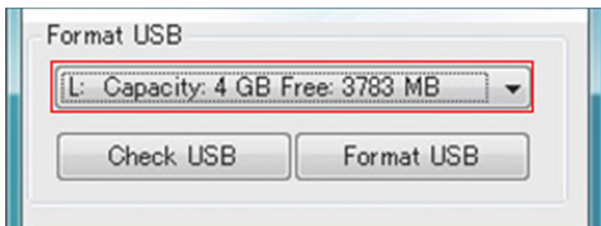
BIOS を設定

起動ドライブの設定で、USB デバイスを最優先にする。なお PC によっては、BIOS の設定とは別に起動ドライブを選択できる



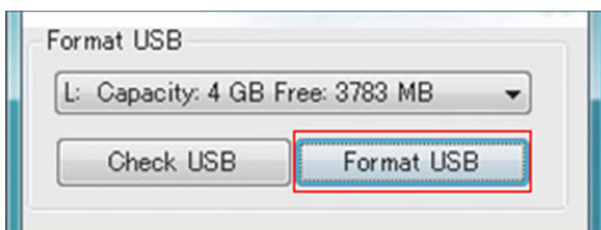
「1」A Bootable USB のメイン画面

「Check USB」をクリックすると、PC に接続されている USB メモリを認識する



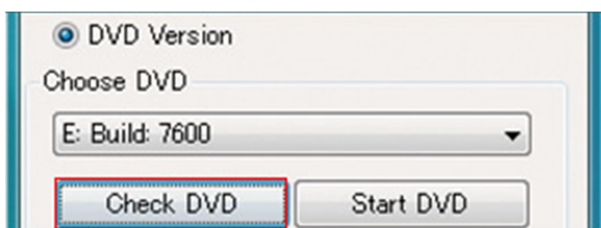
「2」USB メモリを選択

Windows 7 のインストールメディアとして使う USB メモリをリストの中から選択。別のメディアを選択しないように注意したい



「3」フォーマットを実行

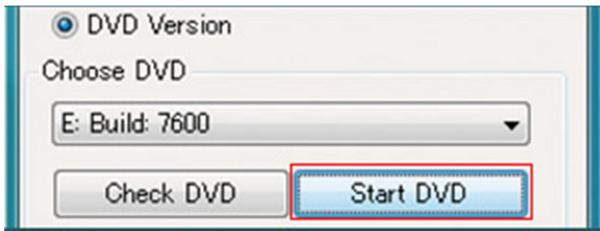
「Format USB」を押して、USB メモリをフォーマットする。データが入っているのなら、事前に待避しておくこと



「4」メディアを選択

「Check DVD」を押すと、光学ドライブ内のメディアが認識される。事前にインストールディスクを入れておこう





USB メモリを作成

最後に「Start DVD」を押すと、ファイルのコピーとブートセクタの書き込みが行なわれる。これで A Bootable USB での作業は完了だ

Windows 7 のインストール方法

TEXT: 宇野貴教

「2」クリーンインストールの手順

■ Windows Vista と同様のインストールプロセス

ここでは、Windows 7 のクリーンインストールの手順を紹介していく。ただ、その前に下準備をしておきたい。まず現在の OS が動作している間に、ネットワークアダプタのドライバをダウンロードし、USB メモリなどにコピーしておこう。Windows 7 インストール後にネットワークアダプタが使えなかった場合、必要なドライバをインターネットからダウンロードできないからだ。

ストレージの接続に、RAID カードなど特殊なデバイスを用いる場合は、こちらも事前に準備しておく。AHCI 対応の HDD や SSD とチップセットを使用しているのであれば、BIOS で AHCI モードに変更しておこう。

Windows 7 のメディアを使って PC をブートすると、インストールが開始される。まずキーボードや言語、IME の選択画面が表示される。基本的に変更する必要はないのでそのままウィザードを進めていく。続けてソフトウェアライセンス条項が表示されるので、目を通した後に先に進もう。次に既存 OS からのアップグレード と新規インストールのいずれかの選択が求められるので、ここで「新規インストール」を選択する。

先に進むと、Windows 7 をインストールするストレージの選択画面が表示される。もし RAID カードなど別途ドライバが必要なデバイスを使っている場合は、「ドライバーの読み込み」でドライバをインストールする。

ストレージを選択すると、「拡張」と「削除」でパーティションの作成と削除、「フォーマット」でストレージのフォーマットが行なえる。なお、システムドライブのパーティションとは別に、OS が使う約 100MB の専用パーティションが作られる。OS をインストールするドライブおよびパーティションを選択したら、「次へ」ボタンをクリックする。ここまで作業すると、インストールメディアから HDD へのファイルのコピーと展開が行なわれる。10～30 分ほどかかるのでしばらく待ってしよう。

■ ネットワーク環境などを設定してインストール完了

ファイルのコピーと再起動の後、ログインユーザー名とネットワーク上のコンピュータ名を設定する。必要であれば、次の画面でパスワードを設定する。

さらにプロダクトキーの入力が求められるが、省略して進めることもできる。その場合、インストール完了後にコントロールパネルの「システムとセキュリティ」-「システム」で入力すればよい。

その後は Windows Vista/XP でもおなじみの自動更新や時刻と日付、ネットワークゾーンを設定していく。ネットワークゾーンは自宅で使う「ホームネットワーク」、会社 で使う「社内ネットワーク」、ホットスポットなど公共ネットワークで使う「パブリックネットワーク」の三つから選択する。選択した内容に応じてネットワークやセキュリティの設定が変わるので、利用場所に応じて選択してほしい。この設定はインストールが完了してから変更することもできる。

インストールの操作はここで終了だ。あとはデスクトップの設定などが行なわれ、少し待てば Windows 7 のデスクトップ画面が表示される。



「1」最初はキーボードやIMEの設定

Windows 7 の DVD から起動すると、最初にキーボードやIMEの設定画面が表示される。適切なものを選んで「次へ」を押す





「2」インストールの初期画面

そのまま「今すぐインストール」で次に進もう。ちなみに OS が起動しなくなった場合は「コンピューターを修復する」で回復を試みる事が可能



「3」ライセンス条項の確認

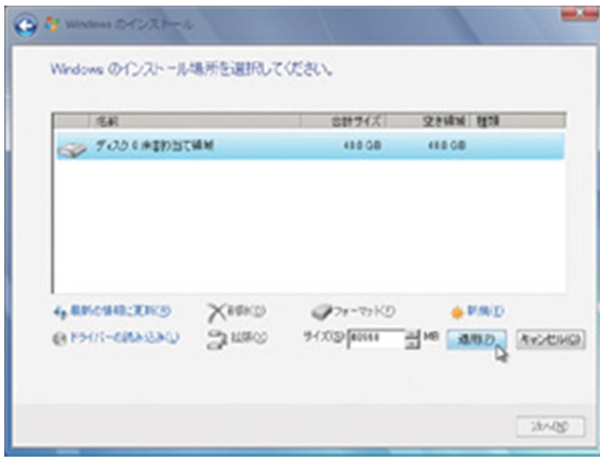
Windows 7 を利用する際に重要となるライセンス条項が表示される。とくに初めてのインストールの際は目を通そう



「4」インストールの種類を選択

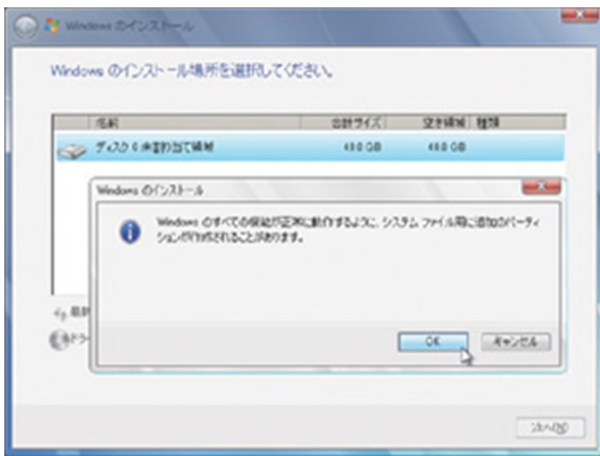
現在の OS をアップグレードするか、それともクリーンインストールを行うかの選択画面。ここでは「新規インストール」を選択





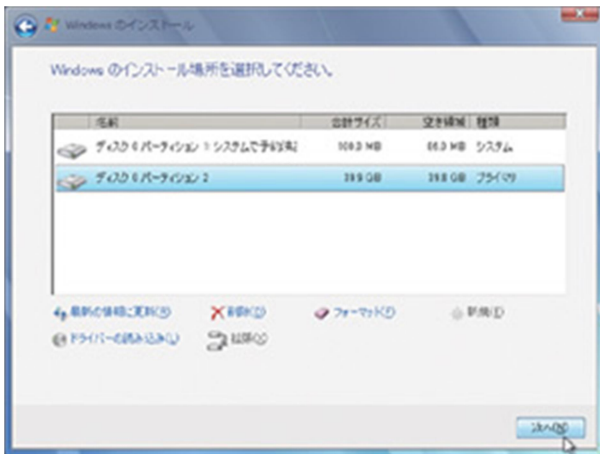
「5」ストレージの設定

まっさらな HDD を使うなら、ここでパーティションの設定や、フォーマットを行なう。パーティションを分割しないなら「次へ」をクリック



「6」システム専用のパーティション

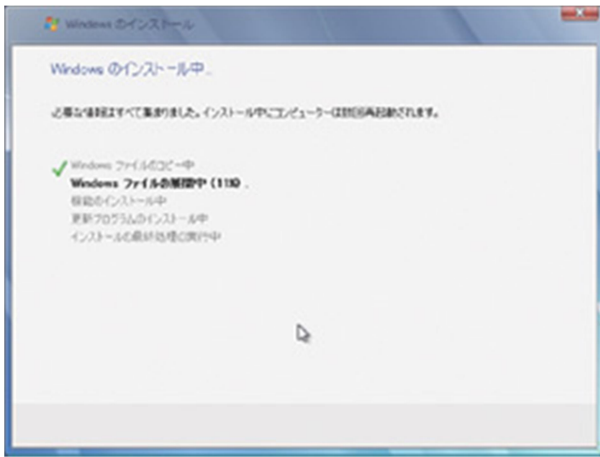
環境によって、ここでシステムが利用する専用のパーティションが作成される。誤って削除しないように注意しよう



「7」インストールするパーティションを選択

Windows 7 をインストールするパーティションを選択して「次へ」ボタンをクリックすると、ファイルコピーが開始する

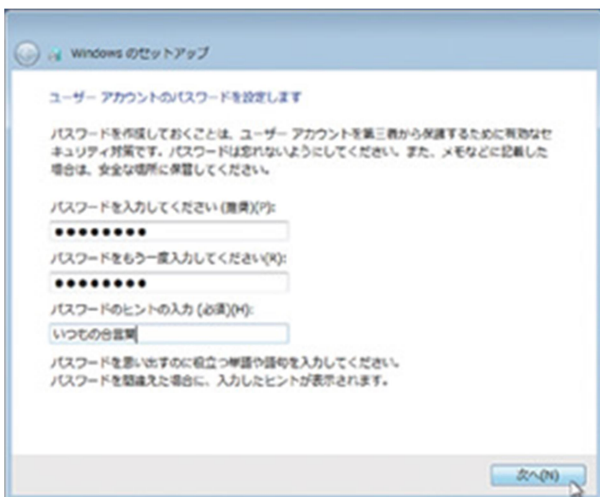




「8」10～30 分ほどファイルコピーが続く
ファイルのコピーや展開の作業は時間がかかる。
10～30 分程度で終わるので、しばらく待ってよう

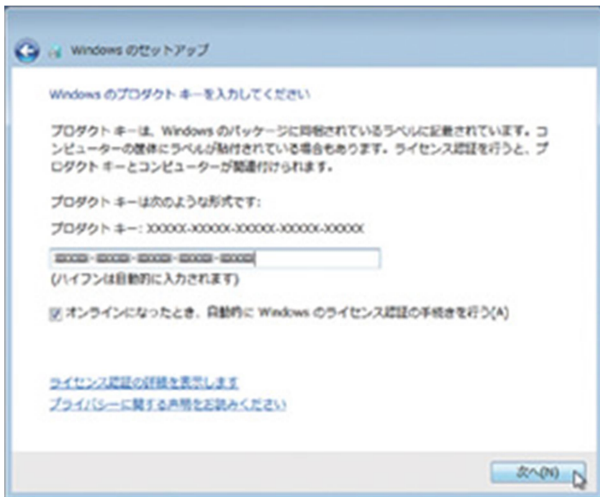


「9」ログインユーザーの設定
ファイルコピーが終わると、管理者アカウントの作成が求められる。ユーザー名とコンピュータ名を入力しよう



「10」パスワードの設定
先ほど入力したユーザーのパスワードを設定する。忘れた場合に備えて、パスワードのヒントを入力する欄も用意される





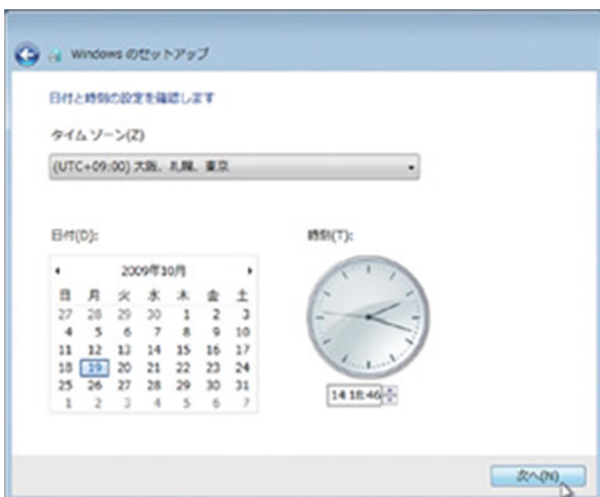
「11」プロダクトキーの入力

25 文字のプロダクトキーを入力する。Windows Vista と同様、空欄で進めてインストール後に入力しても構わない



「12」自動更新の設定

自動更新の設定を選択する。推奨設定を指定しておけば、重要な更新がリリースされると自動的にインストールされる



「13」時刻と日付の確認

時刻と日付、タイムゾーンを確認する。インストール後でも修正できるが、念のため間違っていないか確認しておこう

